佛蘭西政令下帙卷之一

114
A2790
6

佛蘭西政令下帙巻之一

政令ノ事業

前帙ニ説キタル政法ノ區別ニ従ヒ政令ノ事業ヲ茲ニ掲示スルコト左ノ如シ

税ハ経濟ニ属シテ最重立タルモノナリ

危險ヲ包藏シ便利ヲ妨ケ健康ヲ害スル諸建設ハ安寧ニ属ス

水利及ヒ公用買上ケ及道路ノ取締ハ便利ニ属ス

右ノ事業ヲ須次シ説ク可シ

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

大藏省

稅

總論

稅ハ公費ニ給スル爲メニ人々ヨリ給スルモノナリ

舊法ニ從ヘバ稅ハ國會ニテ投票シタリ其後ニ至リテ王自ラ之ヲ定メタリ此頃ノ稅ハ不公平ノ事ノミナリ如何トナレバ僧ト貴族トハ各免許ヲ有シタルタ故ナリ

アッサンブレーコンスティテューアン止ニ於テ二ツノ規則ヲ立テタリ即チ稅ハ法律ヲ以テ規定スルコト住民ノ富ニ平均スルコトナリ

主宰職ノ建國ノ頃稅法ヲ改正シ牖戸ノ稅ヲ立タルモ此時ナリ

コンシュル職ノ建國ノ頃稅ヲ直稅及稅ニ分ツ事ヲ再興セリ

稅ニ關スル重立タル舊法ヲ左ニ掲ク

及稅ニ付キ出セル千八百十六年四月廿八日ノ法律

人稅及家産稅及牖戸稅ニ付キ出セル千八百三十二年四月廿一日ノ法律

大藏省

職業税ニ付キ出セル千八百四十四年四月廿五日ノ法律

税ノ區別

税ヲ直税及税ニ分ツ直税ハ出税人ヲ記載シタル名簿ヲ以テ取立テ及税ハ生産或ハ運用或ハ使用スル時ニ當リテ出税則ヲ以テ本人ヨリ取立ルモノナリ

直税ト及税トヲ區別スルハ之レニ付キテ争論起ル時ニ當リテ利益アリ直税ニ付キテ起ル争論ハ之ヲ聽クノハ政令ノ官署ノ任ナリ如何トナレハ直税ハ直税ノ事ヲ司ル所ノ政令ノ官署ニテ作レル名簿及ヒ其名簿ヲ施行スヘキト確定シタル州知事ノ決定書ノ如キ政令ノ文書ヲ以テ規定スレハナリ及税ニ付キテ起レル争論ハ之ヲ聽クノハ司法ノ官署ナリ如何トナレハ及税ハ法律中ニ載ル税則ヲ當ル外他ナケレハナリ

直税及税ヲ起スニハ年々歳入出ノ法律ヲ以テ定ム

第一篇

直税

直税ハ配賦税ト拾聚税トニ分ツ配賦税ハ既ニ配當スルノ後ニ非レハ出税人ニ及ボサズ拾聚税ハ配當スル事ナリ直チニ出税人ニ及ブモノナリ

配賦税ハ先ツ元高ヲ定ムル而シテ出税人ノ出ス可キ税額ハ配當ノ後ニ非レハ知ル可カラズ故ニ歳入出ノ法律ニ配賦税ノ高ハ定メアリト雖モ拾聚税ハ其高ノ概畧ヲ載スルノミ

仮税ハ直税ノ如ク配賦ト拾聚トニ分ツヿナシ

蓋シ仮税ハ都テ拾聚税ナレバナリ

配賦税ハ歳入出簿ヲ以テ元高ヲ前以テ定メ而シテ制法官ヨリ之ヲ諸州ニ配賦ス各州ニ於テ其州會ヨリ州ノ納ム可キ税額ヲ諸郡ニ配賦ス各郡ニ於テハ其郡會ヨリ郡ノ納ム可キ税額ヲ諸里ニ配賦ス各里ニ於テハ其配當委員ヨリ里ノ納ム可キ税額ヲ出税人ニ配賦ス

配當委員ハ七人ナリ任期五千人以下ノ里ニ於テハ里長及ヒ副里長ヲ合セテ七人ナリ其他ノ五千人以上ノ里ニ於テハ里會議員二人ヲ合ス

其他ノ五人ハ皆郡知事ノ命シタル出税人ナリ
此五人ノ中少クモ二人ハ里外ニ居住スル者ヲ
要ス
配賦税ト拾聚税トハ必ス之ヲ分ツヲ要ス配賦
税ハ出税人若シ税額ヲ減省スルカ或ハ廃弃ス
ルヿヲ得タル時ハ不足ノ高ハ里ノ任ニシテ翌
年之ヲ里ニ命シ全里ヲシテ必ス納メシム可キ
モノナリ然ルニ拾聚税ニ付テハ不相當ノ税ハ
官庫ノ任ニシテ即チ輔閥金ヲ以テ之ヲ輔フ
配賦税ノ内ニハ地税人税及ヒ動産税庸戸税ヲ

含ム
拾聚税ノ内ニハ職業税礦山税及ヒ其他ノ直税
ト見做シタル税ヲ含ム
直税ノ規則ヲ四ツニ分ツ即チ配賦税本収納訴
訟ナリ
配賦ノ仕方ハ既ニ前ニ説キタリ今茲ニ四直税
ノ税本ト直税ノ収納及ヒ直税ニ拘ハル訴訟ト
ヲ説ク可シ
直税ノ税本
地税

地税ノ原則ハ千八百九十年十一月廿三日ノ制誥ヲ以テ規定セリ此制誥ヲ第七年霜月三日ノ法律ヲ以テ廃棄シ此法ヲ以テ制誥ニ替ヘタリ即チ今日地税ノ原則トナル者ナリ

地税ハ建設ノ有無トモ土地ノ税産ニ従ツテ取立ツ

産ヲ粗産精産税産ノ三種ニ分ツ

粗産ハ耕作ノ費等ヲ引クヿナク土地ノ全クノ実産ヲ云フ

精産ハ耕作ノ費及ヒ保護等ノ費ヲ引キ残ル所ノ実産ヲ云フ

税産ハ精産ヲ数个年平均シテ通算シタルモノヲ云フ

充實

各里ノ出税人ニ地税ヲ配當スルノ基本トナルモノハ分割地ノ充實ナリ即チ土地ノ各部ノ税産ノ積リノ表ヲ以テ原ト為ス

充實ヲ確定スル事ヲ既ニ仏サンブレーコンスヂュー及コンワンションノ建國ノ時ニ命シ第十二年ニハ充實ヲ耕作ノ總計ヲ以テ定ルヲ

命シタリ

土地ノ各部ノ税産ノ積リノ表ヲ作リ分割地ノ充實ヲ定ムルヲ命シタルハ千八百七年九月十五日ノ法律ヲ以テ起シタリ

千八百五十二年以来佛蘭西國ノ諸里ノ充實ヲ全ク定メタリ

千八百五十年八月七日ノ法律ニ従ヒ三十年以前ニ充實ヲ定メタル里ハ更ニ其充實ヲ改正ス可シ尤此改正ハ里會ヨリ請求アリテ州會ニテ同意アルヲ要ス而シテ改正ノ諸費ハ里ニ於テ給ス可シ

充實ヲ定ムルノ所置二種アリ

第一術藝ニ関スル處置

此趣旨トスル処ハ各分割地ノ明細圖面ヲ作ルニアリ依テ境界ヲ定ムル事測量分見ヲ含ム

第二政令ニ関スル處置

此趣旨トスル所ハ税産ヲ定ムルニアリテ土地ノ立級命價配級ノ三事ヲ含ム

立級ハ土地ノ土性ヲ幾級ニカ分チテ楷級ヲ立

テ定ムルニアリ建設ナキ土地ハ五級以上ニ分ツ可ラズ建設アル土地ハ十級以上ニ分ツ可ラス此級ヲ立ツル事ハ里會ニ於テ命シタル地主タルモノニ於テス此地主ヲ命スルニハ里中ノ最高税ヲ納ムルモノヽ中ニテ里會ノ員數ニ匹敵スルノ人員ヲ取リ里會ニ加ヘ之ト共ニスルヲ要ス

立級者ハ人員五人ナリ此内二人ハ成ル可ク里中ニ居住セザルモノヲ要ス

楷級ヲ定ムルハ級毎ニ二ツノ分割地ヲ取ル一ハ上等一ハ下等ナリ諸級ノ関係ヲ定ルハ両分割地ノ中ヲ取ル

命價ハ各級ノ税産ハ幾許ナルカヲ定ムルニアリ之ヲ定ムルニハ里會ニ於テス是亦高税ヲ納ムルモノヽ里會ノ員ニ匹敵スルノ數ヲ取リ里會ニ加フルヲ要ス且ツ州知事議評所ニ於テ州知事ノ決ヲ要ス

配級ハ彼此ノ楷級ニ土地ヲ配當スルニアリ之ヲ為スハ立級者ナリ

立級及ヒ命價ニ對シテノ告訴ハ州知事ニ告訴

ス可シ州知事ハ其評議所ニ於テ裁決ス配級ニ
對シテノ告訴ハ聽訟事務ナルカ故ニ州知事評
議所ニ告訴ス如何トナレハ配級ニ付テノ告訴
ハ權利ヲ破ルト破ラサルトニ拘ハレハナリ
命價ハ常ニ定リアリ但建設アルノ所有地ハ除
ノ可シ如何トナレハ直稅配當人ノ新造營ノ時
ニ稅額ヲ增シ得ルカ如ク持主ニ於テモ亦年ミ
請求ス可キ件アルカ故ナリ
牧場葡萄園田地ノ稅産ハ十五个年ヲ見積リ精
産ノ中ヲ取テ以テ之ヲ定ム而シ此十五年間ノ

大藏省

豐穰ト饑饉トヲ除キテ以テ之ヲ通算ス通常ノ
代木ノ稅産ハ一个年中伐ル所ノ精産代價ノ中
ヲ取ル
仕屋ノ稅産ハ十个年ヲ見積リ家賃ノ精産ノ中
ヲ取テ以テ定ム家賃ノ精産ヲ定ムルニハ保護
及ヒ損所ノ為ニ粗産ノ四分一ヲ減シテ以テ精
産ト為ス
制造所器械所鑄冶所及ヒ轆轤機関ノ制造所ノ
精産ヲ定ムルニハ粗産ノ三分ノ一ヲ減シ其稅
産ハ十个年ヲ見積リ家賃ヲ以テ定ム

大藏省

建設アル土地ノ産ハ其里中ノ最上等ノ田地ノ産ト列準シテ定ム

耕作等ノ為ニ備ヘタル一个年中全ク人ノ住居セサル限屋ハ耕作ニ填タル土地ト同格ニ定ム

元来命價ハ配當ノ四級国郡州里ニ基トナル可キモノナリ命價ヲ正シクスルニハ同シ命價人同時ニ諸方ノ命價ヲ為スヲ要ス然レトモ之ヲ行フ丁芭難シ故ニ閲貫ハ千八百二十一年ノ法律以前ハ只里ノ出税人ニ分配スルノ基トナルノミナリ數年来命價ノ不正ヲ改正シ及ヒ古今貧富ノ沼革ヲ積リ諸州郡及ヒ里ノ配當ヲ公平ニスル事ヲ勉メタリ

建設アル土地ニ付テハ新ニ築造シタル土地ハ里ノ受持ナノ税額ノ外ニ税ヲ拂ハシム在来ノ建設ヲ破却シタル時ハ其税ハ里ノ受持ノ税額ヨリ減スル事ヲ千八百三十五年八月十七日ノ法ヲ以テ要シタリ

直税ノ配當設ハ區分ノ簿冊及ヒ總計簿冊ヲ作ル區分ノ簿冊ハ各區分中ニ含蓄セル小區分ノ土地ト持主ノ名ト圖面ノ番號ト所有地ノ土性

出産及ヒ其等級ト税産トヲ載ルモノナリ總計
簿冊ハアベセノ順序ヲ以テ持主ノ名ヲ記シ且
其持主ノ諸區分地ニ分領シ居ル小區分地ヲ載
ルモノナリ

地税ノ免除

地税ノ免除ニ二種アリ即チ假リノ免除及ヒ永
久ノ免除ナリ假ノ免除ノ相當スルモノヲ左ニ
掲ク

建設シタル土地

三个年ノ免除アリ

乾シタル沼地

木苗葡萄桑ヲ植付タル土地

十个年ヨリ三十个年迄ノ間ニ於テ免除ノ増
減アリ

茲ニ特別ノ免除ヲ付記ス

巴里ニ於ル「リヤリー」ト称スル町ニハ二十个年
ノ免除ヲ與ヘタリ「リヨン」ニ於ル「アンペリアル」
ト称スル町ニハ二十五个年ノ免除ヲ與ヘタリ」
巴里ニ於ル「ルーウル」及ヒ「ヤウルリー」ノ傍ニア
ル貴渡シタル土地ニ建築シタル家屋ノ為メニ

三十个年ノ免除ヲ與ヘタリ

永久ノ免除ノ相當スルモノヲ左ニ掲ノ

出産ナキ所有品即チ里州國ノ公用品及ヒ公ノ

ノ要用ニ充テタル出産ナキ建築

國ノ森林

川河

王ノ領地

國ノ森林ニ付テハ州會ニ付キ出セル千八百六

十六年ノ法律及ヒ里會ニ付キ出セル千八百六

十七年ノ法律ヲ以テ税産ノ半高ノ割ヲ以テ州

ノ加税及里ノ加税ヲ納ムルヲ定メタル事ハ既

ニ前ニ説ノ如シ

王領品ハ其税産ニ從ヒ州ノ加税及ヒ里ノ加税

ヲ納ムル事ト定リタリ

人税及動産税

動産ニ税ヲ及ス為メニ「ゾサンブレーコンス」斛

左ーアントノ頃家賃家僕馬及車ノ税ヲ設ケ及

ヒ作業賃三日分ノ人税ヲ設ケタリ

第六年結果月廿八日ノ法ヲ以テ作業賃一日分

ヲ半「フランク」ヨリ一フランク半迫ニ定タリ

大藏省

第七年雪月三日ノ法則ヲ以テ税額ノ不足ハ住所ノ家賃ニ平均シ動産税ニ配當ス動産ハ家賃ノ高ヲ以テ定ムル事知ル可シ

アッサブレーコンステーアント」ノ頃人税ヲ動産税ヨリ分チ一ノ拾聚税ト為セリ

第七年ノ法則以来人税及ヒ動産税ヲ合セ一ノ配賦税トナシ前以テ定メアル高ニ満ルヲ要セリ

里ノ出税人ニ配賦ス可キ税額ヲ得ンカ為メニ出税人ノ負數ヲ集會ニテ定タル作業賃ノ定メヲ以テ来シ猶税額ノ不足ハ家賃ニ平均シテ配賦ス

千八百三十一年人税ヲ動産税ヨリ分チテ拾聚税ト為セリ千八百三十二年四月廿一日ノ法ヲ以テ再ヒ之ヲ合セテ一ノ配賦税ト為シタリ

現今ノ制度

人税ハ作業賃三日分ト定メ作業賃ハ半フランヨリ一フランニク半迄ノ間ニ於テ昇降ス作業賃ヲ定ムルハ州會ニ於テス

人税ハ佛蘭西人或ハ外國人ナルヲ論スルヿナ

ク民權ヲ受ケ及ヒ里會ニ於テ貧人ト見做サレ
ザル諸住民ヨリ納ム
左ニ記ス所ノ者モ權利ヲ受ル者ト見做ス可シ
寡婦及ヒ離別ノ妻長年或ハ幼年ヲ論ゼス已レ
ノ職業或ハ已レノ財ヲ以テ活計ノ手立アル男
子及ヒ女子但シ父母後見人ト同居ナルに同樣
ナリ
動産稅ハ家賃ヨリ取立ルト雖モ唯人ノ住スル
所ノ家賃ニノミ及フ可シ製造或ハ代言者等ノ
免許アル職業ヲ爲ス爲メニ用タル場所ヲ加

フ可ラス家賃ノ積ハ配當役ヲ爲ス
人稅ハ其人ノ專ラ住スル里ニ納ム動産稅ハ其
人ノ家屋アル諸里ニ納ム
人稅ハ原稅ノミナリ動産稅ハ加稅ヲ受ク可シ
人稅及ヒ動産稅ハ歲首ニ於テ受取ル カ故ニ滿
一年ノ稅ヲ納ム假令其人既ニ稅ヲ納メ然ル後
死スレハ其相續人之ヲ負フ可シ
出稅人住所ヲ轉換シタル時新宅ニ於テ稅ヲ納
メタル時ハ舊宅ノ稅ノ免除ヲ求メ得可シ
借家人轉住スル時家ノ貸主ヨリ前以テ其事ヲ

税ノ収納役ニ報知セサル時ハ税ニ付テハ都テ
賃主ノ責任ナリ借家人若シ隠匿ニ轉居シタル
時ハ三日内ニ其事ヲ報知シ治安裁判役里長或
ハ警部區長ヲ乞フテ其事ヲ檢査セシメザレハ
税ニ付テハ亦賃主ノ責任ナリ
千八百三十二年ノ法律ニ從ヒ閭税ヲ設ケタル
諸市ニ於テハ人税及ヒ動産税ノ税額ヲ閭税ヲ
以テ全額或ハ部分ヲ納ムルノ權アリ此權ヲ行
フニハ里會ノ求メアリテ帝ノ制詰ヲ以テ許可
アルヲ要ス

閭税ヲ以テ部分ヲ納ムル時ハ衣豆ノ高ハ家賃
ニ平均シ動産ノミニ配賦ス此動産税ヲ取立ル
ニハ微少ノ家賃ハ之ヲ除キ家賃ノ高ニ從ヒ割
増シヲ加ヘ以テ税則ヲ設ケ可シ
巴里府ニ於テハ四百フランク以下ノ家賃ノ
家ハ動産税ヲ免除セリ然レトモ此免除ハ左ノ
モノニ及フ可カラス
巴レノ所有ノ家ニ住居スル家主及ヒ巴里
ニ暫時寄留スル人
巴ノ所有ノ家ニ住居セサレトモ三百フラン

ノニ上ル地税ヲ巴里ニ納ムル所有主
住居ノ家賃ト製造ノ為メニ用ヒタル家ノ
家賃ニ合セテ四百フランクヲ越ユル職業
アル人
四百一フランクヨリ六百フランク迄ノ家賃
ハ三分ヲ拂フ六百一フランクヨリ千フラン
ク迄ノ家賃ハ五分ヲ拂フ千一フランクヨリ
千五百フランク迄ノ家賃ハ七分ヲ拂フ千五
百一フランクヨリ以上ハ九分ヲ拂フ
動産税ヲ閭税ヲ以テ納ムルハ官家ニ益アリ故

大藏省

ニ微少ノ家賃ニハ税ヲ免除シタノ分ノ家賃ニ就
テ其ノ高ノ加増スルニ従ヒ割増ヲ加ルナリ

牖戸税

牖戸ノ税ハ他ノ税ニ比スレハ最新規ノモノナ
リ是ハ英國ノ法ニ習フテ主宰職ノ時ニ起シタ
ルモノナリ
牖戸税ノ目的ハ動産ヨリ税ヲ出サシメテ動産
税ノ輔ト為スニアリ動産税ハ住所ノ家賃ヲ以
テ税本トセリ然ルニ家賃ノ直積リハ不規則ナ
ルモノニシテ不都合ヲ生スルヿ少ナカラス牖

大藏省

戸税ハ家ノ牖戸ノ數ニ因ルカ故ニ税本確實ナリ故ニ牖戸税ハ家賃ノ直積ノ不規則ヨリ起ル不公平ナル事ヲ改正スルニ豆レリ蓋シ此ヨリシテ動産ハ家賃ト家ノ牖戸ノ數トヲ以テ定ムル事トナレリ

元来牖戸税ハ拾聚税ナリシカ第十年花月十三日ノ法律ヲ以テ之ヲ配賦税ト為レタリ

千八百三十一年三月廿六日ノ法ヲ以テ又牖戸税ヲ拾聚税トナシ諸方ヨリ訴起ルヿヲナカラズ

千八百三十二年四月廿一日ノ法ヲ以テ再配賦税トナシタリ

牖戸ノ税ハ税本確實ナリト雖モ亦不公平ナルヿヲ生セリ如何トナレハ此税ヲ立ルニ所有品ノ價ニ從フヿナク唯牖戸ノ數ノミヲ以テ定ムレハナリ

此不便ヲ改正センカ為メニ千八百五十二年三月十七日ノ法ヲ以テ之カ為メニ別ニ税則ヲ設ルヿヲ巴里府ニ許セリ此税則ハ即チ家賃ト牖戸ノ數トヲ分算シテ作ルモノナリ

此仕方ハ追ハリヨン及ボルドーノ如キ諸大市ニモ設ルニ至レリ

現今ノ制度

往来及ヒ建設ノ前庭及ヒ花檀ニ臨ム牖戸ハ此税ノ税本ナリ

左ニ記載スル所ノモノハ除ク可シ

戸扉ヲ施サヽル牖

収納小屋羊小屋厩等ノ明リ取リ或ハ空氣ヲ通スルノミノ牖

公用ニ充タル建設ノ牖戸

製造所ノ牖戸但シ居住トナスタル場所ノ明リ取リノ牖ハ此中ニ入ラス

右ノ外不健康ノ住所ヲ健康ニスル為メニ三ヶ年間假リノ免除アルヿ知ル可シ

動産税ハ借家人ヨリ納ム可キモノナレ𪜈牖戸税ハ貸家主ヨリ納ム然ルニ貸渡証文中ニ貸家主ヨリ納ムルノ約束アラサル時貸家主ヨリ借家主ニ納税ヲ求メ得可シ然レハ牖戸税ヲ納ルノ其實ハ借家人ナリ如何トナレハ此税ヲ借主ヨリ貸主ニ納ムルカ或ハ若シ証文中ニ此約束

アラサレハ家賃ヲ貴ク拂フカシテ其結局借主ヨリ出ルモノナレハナリ

千八百四十八年以前撰挙ノ権ヲ納税ノ高ニ托シタル頃ハ拂主ヲ定ムルヿ要用ナリ庸戸ノ税ハ貸渡シノ証文中ニ其拂方ヲ貸主ニ托シタル時ト雖モ借主ノ納税ノ中ニ加ヘタリ然レモ此税ノ中貸主ノ納ムルモノモ亦アリ即チ一家ニ住シ居ル諸人ノ用ニ充タル庸戸ノ為メニ納ム可キ税ハ則貸主ノ持分ナリ

庸戸ノ税ハ比較税則ニ従テ取立ツ比較ノ仕方ヲ左ニ掲ク

第一里ノ人員

第二庸戸ノ數

第三庸戸ノアル層樓

庸戸ノ税ハ税則ニ従テ取立ツルヲ以テ拾聚税ニ類スト雖モ取立可キ税額ヲ前以テ定メアル故ニ配賦税ナリ

里ノ拂フ可キ税額ヲ住民ニ配賦スルハ税則ヲ里中ノ庸戸ニ當ルニアリ若シ其高ノ税額ヲ越ルカ或ハ不及カノ時ハ出税人ノ出税額ヲ平均

シテ増減スルヿアリ

職業税

職業税ハ前以テ其高ヲ定ム可ラサルモノニシテ拾聚税ナリ此税ハ歳入出簿中ニ凡ノ高ヲ載ルナリ

此税ノ内幾分ヲ理財法ヲ以テ里ノ用ニ當ツアッサンブレーコンスタブレーアントニ於テ諸職ノ棟梁ヲ廃シ貿易及ヒ製造ノ自由ヲ布令シ貿易製造ヲ為ス所ノ者ヲシテ職業税ヲ納ノシメタリ

職業税ハ職業ヲ為スニ用ヒタル場所ト住処トノ階家賃ヲ以テ税本トス

此方畧ハ甚不便アリ如何トナレハ職業ヨリ生スル所ノ利ハ職業ノ為メニ用ヒタル場所ノ大小ニ比較ス可ラサレバナリ

千七百九十三年三月廿一日ノ法ヲ以テ此税ヲ廃棄セリ蓋シ此税ハ動産税ト重複スルヲ以テナリ

第三年炎月四日ノ法律ヲ以テ或ル職業ノ為メニ此税ヲ再興セリ

第四年結果月六日ノ法律ヲ以テ此税ヲ諸職業ニ及ボシ比較税ト定税トヲ相混合シテ之ヲ用ヒタリ

第七年霜月一日ノ法ヲ以テ前ノ規則ヲ取リ新ニ税則ヲ作レリ

千八百四十四年四月廿五日ノ法ヲ以テ比較税ヲ除シテ又新税則ヲ作レリ是即チ現今ノ制度ノ基ナリ

現今ノ制度

職業税ハ商人ノミナラス何如ナル職業ヲ為ス者ト雖モ皆其税ヲ納ム尤判然ト免除アル職ハ此例ニアラス

代言人ノ職業及ヒ其他才能ノ職業ハ商業ヲ兼子ザル時ト雖モ職業税ヲ納メシム

職業税ハ定税ト比較税トヲ合セタルモノナリ

定税ハ(ア)(ベ)(セ)ト記シタル三ツノ表ニ従ヒ規定ス

(ア)ト記シタル表ニ載スル所ノ職業ハ土地ノ人員ニヨリ差異アリ且ツ一般ノ税則ニ従フモノナリ此表中ニハ職業ヲ八級ニ分チ人員モ亦八

級ニ分ツ而テ各級職業税ハ人員ニ従テ差異アリ

(ベ)ト記シタル表ニ載スル所ノ職業ノ定税ハ土地ノ人員ニ従ヒ差異アリ且ツ別段ノ税則ニ従フモノナリ此表中ニ含蓄スル職業ハ兌銀舗及銀行ノ役人等ノ如キ多分ノ利益ヲ得ルノ職業ナリ此定税モ職業毎ニ差異アリ且ツ土地ノ人員ニ従ヒ差異アリ

(セ)ト記シタル表ニ載セタル職業ハ土地ノ人員ニ拘ハラサルモノナリ此表ニ載スル職業ハ通例野外ニ設クル制造所ナリ定税ノ為メニ職人釜其他製造器具ノ數ヲ以テ定メタル格段ノ税則ヲ設ケタリ

表ニ載セサル職業ノ為メニ納税セシムルニハ其職ノ最類似セル職業ノ標準ヲ以テ税ヲ納ル ヲ州知事ノ決定書ヲ以テ定ム尤此同類ノ中ニ加ヘ入レタル決定書ニ對シテ出税人ヨリ州知事評議所ニ告訴スルヿアリ

一人ニテ多クノ職業ヲ為ス者ハ職業ノ中定税ノ最高額ヲ納ム此規則ニ脱スルヿニツアリ

第一若シ製造者多クノ職業ヲ各所ニ於テ為ス時ハ先ツ職業中定税ノ最高税ヲ納メ場所毎ニ其税額ノ半高ヲ納ム尤此半高税ハ之ヲ集メテ本税ノ倍ヲ越ユ可ラズ

第二持寄會社ハ會主タルモノ定税ノ全額ヲ納メ社中ノ各人ハ定税ノ分部ヲ納ム若シ社中二人ナレハ會主全額ヲ納メ他ノ一人ハ其半高ヲ納ム三人ナレハ三分ノ一四人ナレハ四分ノ一ヲ納ム故ニ二人ノ會社ナレハ定税ノ全額ト其半高ヲ納メ三人ナレハ全額ト三分ノ二ヲ納メ四人ナレハ全額ト四分ノ三ヲ納ムルナリ

財主アル會社ハ財主タル者ヲ持寄會社ノ社中ト見做ス

無名會社（鉄道等ヲ起スニ於テハ差配人一人全如キ大會社）社ノ為メニ納税ス

比較税ハ住所ト職業ノ為メニ用ヒタル場所ト家賃ニ従テ定ム

税ノ減省除却

代言人医師獣医造営師等ノ如キ才能ニ拘ハリタル職業ハ定税ヲ納メシメズ但シ千八百五十

年五月十五日ノ法律以来家賃ノ十五分一ノ比較税ヲ納メシム

㋐ト記シタル表中ニアル第七級及ヒ八級ノ職業ハ二萬人以下ノ市ニ於テハ比較税ヲ拂ハシメス

左ニ記ス所ノモノハ職業税ヲ納メシメス

國廳州廳及里廳ヨリ俸ヲ受ル役人文學及ヒ諸藝ノ師匠小學校ノ師匠新聞紙ノ板刻人音曲師農夫漁者礦山師他人ノ製作場ニ於テ賃取リ或ハ日雇ニテ働ク所ノモノ仲間ナク第子ナク招牌ナク肆店ナク唯我カ家ニテ働クモノ左十六歳以下ノ第子ト共ニ働クハ第子ナキモノト見做ス可シ

直税ノ請取方及ヒ之ニ付キ起ル訴訟

直税ノ請取方

直税簿ハ直税委員之ヲ作リ州知事之ヲ施行ス可キヲ決シ請取ノ為メニ任シタル請取役ニ送リ里長之ヲ公布ス

直税ハ十二分ノ一宛ヲ拂フ可シ

拂ヲ滞リナカラシムルノ處置ハ政令ニ関スル

事アリ司法ニ関スル事アリ

政令ニ関スル處置左ノ如シ

第一無費ノ徵求八日後ニ至リ有費ノ徵求

第二人ヲ遣シ督責スル事但シ一人ノ為ニ一人ヲ遣スヿアリ数人ノ為メニ一人遣スヿアリ人ヲ遣シ督責スルハ郡知事ノ点撿シタル請取役ノ督責書ヲ出シタル後ニ次クモノナリ

督責書ハ裁判ト見做シテ可ナリ如何トナレハ督責書ハ収納抵當ノ権ヲ與ヘ司法ノ道ヲ以テ處置スルヲ許スモノナレハナリ

司法ニ関スル處置ハ左ノ如シ

第一命令是ハ人ヲ遣シ督責シタル後三日ニ至レハ行フ可シ

第二家具ヲ取上ケ賣拂フ事是亦督責ノ後ニ来ルモノナリ

第三不動産ヲ抑留スル事是ハ理財長官ノ許可ヲ要ス

民法二千〇九十八个条及ヒ千八百八年十一月十二日ノ法律ニ従ヒ左ニ記ス所ノ権利ヲ國ノ金庫ニ有ス

第一前年及ヒ本年ノ地税ノ為メニハ不動産ノ出産物及ヒ賃渡料ノ如キ入額ヲ抑留スルノ権アリ

第二前年及ヒ本年ノ他ノ税ノ為メニハ拂不足アルモノニ属シタル動産ヲ抑留スルノ権アリ拂不足アル者ノ住処何処ニアルヲ論スル事ナシ

税ヲ徴求スルノ権ハ三年ヲ過レハ消滅ス既ニ納メタル二重納ノ税ノ割戻シノ訴訟ノ消滅スルカ如シ

訴訟

直税ノ事ニ付キテ起ル訴訟ノ原由ハ簿書ニ記載ノ事ト配賦ノ税額ヲ廃止或ハ減省ト所有ノ轉移スル事トナリ

簿書記載ノ願ハ出税人ノ加入セントト欲スル簿書ニ其名前ノ脱落シタルヲ出税人ヨリ訴訟スルナリ

此願ヲ為シテ出税人ノ利益トナル事ハ以前人撰ヲ税額ニ托シタル頃政権ヲ行フニ利益アリタリ現今出税人ノ利益タル件〻ヲ左ニ掲ク

第一里長及ヒ副里長ヲ命スル為メト州會及郡會ノ充撰人タル可キ為メトナリ郡會及州會ノ充撰人タルモノハ住所ト州或ハ郡ニ直税ヲ拂フタル事トヲ要スル事既ニ前ニ判然タリ

第二里ニテ怠タリタル訴訟ヲ自ラ為ス為メナリ

第三里ノ変異ニ付キ里會ト共ニ意見ヲ述フルノ権及ヒ里ノ一區分ノ益ヲ謀リ意見ヲ述ベシムル為メニ設クル委員ノ員タルノ権利ノ為メナリ

廃弃減省願ハ出税人ニ配賦シタル税額ヲ廃弃或ハ減省スルノ出税人ノ請求ナリ此請求ヲ辨訴哀訴ノ二ツニ分ツ即チ廃弃ノ辨訴減省ノ辨訴廃弃ノ哀訴減省ノ哀訴ナリ

廃弃ノ辨訴ハ出税人ヨリ納税ス可キ理ナキヲ以テ已レニ配賦シタル税額ヲ廃スル事ヲ請求スルヲ云フ譬ヘハ出税人ハ已レニ配賦シタル税ノ税本タル不動産ノ所有主ニ非ルカ或ハ職業税ノ免除ノ部中ニアルカノ故ナリ

減省ノ辨訴ハ已レニ配賦シタル税額ヲ減省ス

可キヿヲ辨論スルヲ云フ譬ヘハ任所ノ家貸積
リノ不相當ナルカ或ハ現ニ行ヒ居ル所ノ職業
ヨリ不相當ノ高税ヲ納ム可キ職業ノ簿冊ニ書
キ加ヘアルカノ時ニ辨論スルナリ
廃弃ノ哀訴ハ出税人ニ配賦シタル税額ハ相當
ナリト雖モ不時ノ災害ヲ受ケタルカ故ニ其税
額ノ貢納ヲ廃弃スルヲ歎願スルヲ云フ譬ヘハ
水難火災等ニ羅リ全ク収納ヲ失ヘル等ノ時ナ
リ
減省ノ哀訴ハ災害ノ為メニ全キ収納中幾分カ
ヲ失フタルカ故ニ税額ノ部分ヲ減省スルヲ歎
願スルヲ云フ
廃弃減省ノ辨訴及ヒ哀訴ノ異ナル所ヲ左ニ掲
ク
第一辨訴ハ理ヲ推シテ辨論スルカ故ニ上告ア
ル時ハ聽訟事務ニ属ス哀訴ハ一個ノ利益ニ拘
ハルカ故ニ上告アル時ハ恩命ヲ求ムルノ外他
ナシ
第二辨訴ハ州知事評議所ニ適ス哀訴ハ州知事
ニ適ス

第三州知事評議所ノ決定ヲ破ルニハ國議院ニ
上告ス左代言人ヲ立ル事ナシ州知事ノ決定ヲ
破ルニハ理財長官ニ上告ス
第四辯訴ヲ以テ配賦税ノ廃弃減省ヲ受ケ得タ
ル時ハ廃弃減省シタル税額ハ翌年他ノ出税人
ニ配賦ス左庸戸税ハ元来拾聚税ナルカ故ニ之
ヲ除ノ哀訴ヲ以テ廃弃減省ヲ受ケ得タル時ハ
庸戸税及ヒ職業税ノ辯訴ヲ以テ廃弃減省シタ
ル税額ノ如ク輔闕金ヲ以テ之ヲ輔フ
輔闕金ハ四直税ヲ以テ起ス其用濟貧院ノ如シ

所有轉移ノ願ハ税ノ簿冊ニ記シタル一人ノ名
ヲ他人ノ名ニ書キ換ルヲ云フ此名前換ニ付テ
ハ税ニ従テ差別アリ地税及ヒ庸戸税ニハ州知
事評議所適當ナリ職業税ニハ州知事適當ナリ
人税及ヒ動産税ニハ直税委員ノ適當ナリ
簿書記載ノ願廃弃減省ノ願及ヒ所有轉移ノ願
ハ里長ノ作リタル簿書ヲ布告シタル日ヨリ三
个月間ニ為ス可シ
願書ハ税額三十フランノ以下ニ非サレハ皆ナ
印紙税ヲ納メシム

大藏省

願ハ州知事或ハ郡知事ニ出ス

願書ニハ我カ納税シタル終リノ請取書ヲ添ヘ出ス可シ且ツ州知事評議所ニ於テ願ヲ裁決スル迫ノ間ニ来ル巡ノ納税期限ヲ延シ得可カラス

凡ソ願ハ撿査役ニ送リ撿査役已レノ意見ヲ附シテ諸文書ヲ直税委員ニ送ル直税委員ハ其事ノ受理ス可キヤ否ヤヲ考察シ可ト思フ時ハ上申書ヲ州知事評議所ニ送ル若シ不可ト思フ時ハ其受理セサルノ理ヲ附記シ諸文書ヲ郡知事ノ廳ニ送リ訴訟人ニ其事ヲ達ス若シ訴訟人命價人ヲシテ正鑒セシメント欲スル時ハ十日内ニ其事ヲ報告ス可キノ旨ヲ訴訟人ニ命ス

命價人ノ内一人ハ郡知事ヨリ出シ一人ハ訴訟人ヨリ出ス命價ハ撿査役ノ目前ニ於テス撿査役ハ命價ノ評論ヲ記録シ其記録ニ已レノ意見ヲ附ス郡知事モ亦之ニ已レノ意見ヲ加ヘ諸文書ヲ州知事ニ送ル

州知事評議所ノ決定ハ訴訟ヲ受ケタル時ヨリ三月間ニ為ス可シ

大藏省

既ニ説ノ如ク州知事評議所ノ決定ニ對シテ國議院ニ上告スルニハ代言人ヲ立テサルカ故ニ必ス州知事ノ手ヲ經テ以テ上告ス

直税ニ付テハ請取人ノ方ヨリモ亦訴訟ヲ出ス事アリ

請取人ハ從事ノ始メノ三ケ月中ニ不相當ニ配賦シタル税額ノ簿書ヲ訴出得可シ其事ニ付テハ州知事評議所ニ於テ裁決ス

請取人ハ又此從事期限ノ後ト雖モ一ケ年ノ終リニ於テ不相當ニ配賦シタル税額ヲ州知事評議所ノ廃棄ノ訴ヲ受ル為メ廃棄ノ税額ヲ記スル簿書ニ書キ加ルノ許シヲ得タリ

輔閣金ヲ以テ輔フ可キ廃棄ノ税額ニ付テハ從事ノ始メノ二ケ月中ニ其簿書ヲ州知事ニ出シ廃棄減省ノ恩命ヲ乞フ可シ

仗税

仗税ハ國ノ為メニ取立ルモノアリ里ノ為メニ取立ルモノアリ

國ノ為メニ取立ル重立タル仗税ハ左ノコトシ

第一記簿税

第二関税

第三飲料沙糖塩骨牌ノ税及ヒ烟草硝石火薬製造專業（タバコ）ノ税ノ如キ種々ノ税

以税委負ヲ呼ンデ雑税委負ト云ヘル八如此種種ノ税ヲ取扱フカ故ナリ

雑税委負ノ名八千八百五十一年ノ頃関税委負ヲ兼タル時實ニ適當セリ

千八百六十九年三月十九日ノ制詔以来以税ノ勤務ヲ関税ノ勤務ト分テリ

里ノ為メニ取立ル以税八左ノ如シ

第一道路税

第二閭税

茲ニ記簿税ト閭税トヲ説ク可シ

記簿税

記簿税ハ總称ニメ其含蓄スル所ノモノハ訴状書記ノ税収納抵當（ポテーノ）ノ税証印ノ税記録ノ税ナリ」

訴状書記ノ税ハ訴状ヲ簿冊ニ記スルノ税訴状ヲ草スルノ税及訴状ヲ寫スノ税ナリ

収納抵當（ポテーノ）ノ税ハ首得義務（プリヴィレーヂ）ノ權及収納抵當ノ權ヲ文書中ニ記載スル為メ及所有ノ轉移ニ拘ハ

ル文書ノ書入ノ時ニ納ムル税ナリ

収税ニ拘ハル原法タル千八百十六年四月廿八日ノ法律以来簿冊ニ記載スル為メニ納ム可キ平均税ハ奥書ノ時ニ納メシメ収納抵當ノ官著ノ簿冊ニ記載スル時ハ唯定税ヲ拂フノミ

証印税ハ民事司法ノ関係ヲ論セズ凡ソ裁判所ニ於テ証トナリ必ス信ス可キ諸文書ニ用フル紙ヨリ取立ルナリ

紙ノ幅ニ従ヒ税額ヲ定メタル大小印紙ト紙中ニ載ス可キ金額ニ平均シテ税額ヲ定メタル平均印紙トヲ區別ス可シ

大小印紙ハ千八百六十二年七月二日ノ法律以来五十「サンティーム」ヨリ三「フランク」迄ト定ム此法律以来專ラ活印紙ヲ用フルニ至レリ郵便官署及ヒ公金ノ勘定役ノ請取ノ印紙ハ千八百六十四年六月八日及ヒ千八百六十五年七月八日ノ法律ヲ以テ二十「サンティーム」ニ減省シタリ

新聞紙及ヒ榜示紙ハ別段ノ印紙ヲ用フ

文學術藝及ヒ耕作ニ拘ハル書籍ハ街上ニ於テ分配スル散布書ト等シク印紙ヲ用フルニ及ハ

大藏省

ズ

一

板行ノ事ニ付テ出セル千八百六十八年ノ法律ヲ以テ撰挙ニ拘ハル榜示書ハ印紙ノ式ニ従ハシメズ又

平均印紙ヲ用フルモノヲ左ニ掲ク

第一商用ノ文書

第二會社集金ノ手形

第三片擔義務ヲ定ムル所ノ賣買ス可ラサル文書

両擔義務ヲ定ム所ノ文書及ヒ保証役所ニ於テ作ル文書ハ大小印紙ヲ用フルノミ

第七年霧月十三日ノ法律ノ十六个条ニ印紙ノ式ニ従ハサル文書及ヒ簿冊ヲ掲ケタリ其重立チタルモノハ即チ行法及ヒ制法ノ文書ナリ

千八百三十七年七月廿日ノ法律以来商用ノ簿冊モ亦印紙ノ式ニ従ハシメズ

正真ノ記簿税ハ民事ノ諸件ニ関係アルモノナリ之ヲ規定シタルハ第七年霜月廿二日ノ法則ナリ

記簿税ヲ定税平均税ノ二ツニ分チ又書式税所

大蔵省

有轉移税ノ二ツニ分ツ

定税ハ記簿ノ式ノ為メニ納ムルモノナルカ故ニ文書ニ載ル金額ニ拘ハラス同種類ノ諸文書ニ比例シテ一様ナリ平均税ハ金額ヲ本トナスカ故ニ其多少ニヨリテ差別アリ

定税ハ金額ノ義務モ弁指モ配當モ又動産不動産ヲ所有スルノ権モ受用ノ権ノ他人ニ轉移スルヿヲモ書載セサル文書ニ相當ス

平均税ハ之ニ反シテ右ノ数者ノ一个条ヲ載スル文書ニ相當ス

此ノ差別アルヲ以テ相續ノ承諾忌避或ハ首得義務及ヒ収納抵當ノ権利ニ拘ハル事件ニ付キ其各人相商量シテ互ニ相領スル事及ヒ公散ノ出入勘定書及ヒ熟談等ハ定税ヲ納メ借貸賣買貿易授與ノ文書ハ平均税ヲ納メシム

定税ハ有銘ノ文書ノ為メニハ霜月ノ法律ノ六十八个条ヲ以テ定メタル税則ニ従ヒ之ヲ取立テ無銘ノ文書ノ為メニハ一般ノ个条ニ従ヒ之ヲ取立ツ實ニ六十八个条ノ第一章十五款ニ民事司法ノ無銘ノ諸文書ヲ一フランクノ定税ヲ

納メシメタリ

千八百五十年五月十八日ノ法則ヲ以テ民事ノ文書ハ二フランクヲ納メシメタリ

平均税ハ霜月ノ法律六十九个条ニ掲載シタル文書及ヒ所有轉移ノ為メニ非サレバ取立ツ可ラス

書式税ハ處置ヲ証スル文書ノ為ニ取リ立ルモノナリ

所有轉移ノ税ハ文書ニ拘ハラス動産不動産ノ贈遺或ハ不動産ノ所有ノ權或ハ受用ノ權ノ轉移アレバ直ニ取リ立ツ可キモナリ之ヲ記録スルハ双方ノ求メヲ受ケテ為ス事アリ然レヒ記録税ノ委負ニ於テハ税ヲ取リ立ツルノ所業ヲ詮索ス可シ

定税ハ都テ書式税ノミナリ平均税ハ書式税モ轉移税モアリ

動産不動産ノ賣渡貸渡シノ証書義務ヲ証スル文書請取証書ハ平均書式税ナリ如何トナレハ文書アルニ非サレバ取立ツ可ラサルカ故ナリ」

動産不動産ノ贈遺不動産ノ所有ノ權或ハ受用

ノ権ノ轉移ハ平均轉移税ナリ如何トナレハ文書ナシト雖モ轉移ノ實事アルヲ以テ取立ルカ故ナリ

平均税ヲ取ルニ二方アリ根源ノ本價ニ就テ税ノ出額ヲ定ムルト出税ス可キ税本ノ高ヲ定ムルトナリ

平均税ハ書式或ハ轉移ノ仕方ノ賣拂ナルカ交易ナルカ貸渡シナルカニ從ヒ直ニ差別アリ其後書式或ハ轉移ノ金額ノ多寡ニヨリ復タ税額ノ差別アリ

格段ニ法律ニ載セアル書式及ヒ轉移ノ為メニ根源ノ本價百フランヲ毎ニ幾許ヲ取立ツ可キカヲ定ムルハ税ノ出額ヲ定ムルナリ

取リ立ツ可キ税額ノ未タ定ラサル根源ノ本價ヲ定ムルハ税本ノ高ヲ定ムルナリ

平均税ヲ取リ立ツ可キ税本ハ約定直段カ或ハ積リ直段ヲ以テ定ム約定直段ハ賣買ニ属シ積リ直段ハ授與及ヒ交易ニ属ス

動産ノ積リ直段ヲ定ムルハ賣リ直段ヲ以テ不動産ノ積リ直段ハ所有ノ権ノ為ニハ其歳入ニ

二十ヲ乗シテ之ヲ定メ受用ノ權ノ為ニハ十ヲ乗シテ之ヲ定ム

死者ノ贈遺生者ノ授與ノ為メニハ其負債ノ多寡ヲ論セス實産ヲ以テ税ヲ取立ルナリ

命價

約定直段或ハ双方ノ言立直段ヲ記簿ノ官署ニ於テ命價ノ委員ヲ立テ檢査シ得可シ命價ノ委員ハ其官署ノ求ニヨリ裁判所ヨリ命スルモノナリ

記簿ノ官署及ヒ相手方ニテ各命價人ヲ指名シ

両命價人不一致ノ時ハ更ニ一人ヲ両命價人ニテ指名ス若両命價人指名ニ付テ不一致ナル時ハ治安裁判役之ヲ指名ス

賣渡約定ノ命價ト授與ノ命價ト差別アリ

賣渡シノ命價ハ賣直段ヲ定メ授與ノ命價ハ歳入ヲ以テ積ル

賣渡ニ付テハ簿書ニ記シタル日ヨリ一个年中賣渡ニ付テハ命價ノ委員ヲ立ルヲ求ム可シ授與ニ付テハ二年間ニ求ム可シ

賣渡ニ付テハ命價人ノ直積リノ約定書ニ載セ

タル價直ノ八分一ヲ越ユルニ非レハ命價ノ費用ハ引取人ノ任ニ非ス授與ノ為ニハ命價人ノ直積ノ書出シノ直段ヲ些少モ越ユル時ハ費用ハ出税人ノ任ナリ

命價人ヲ以テ檢査スルハ察スルニ動産ニハ過セサルニ似タリ

税ノ拂方

税ノ拂方ニ付キ督責ト取立トノ二ツヲ區別スル記簿ノ官署ハ官吏ヲ其職ノ文書ノ為メニ督責シ約定スル所ノ双方ノ私ノ約定ノ文書ノ為メニ督責シ又相續人或ハ遺物ヲ受ルモノヲ死者ノ遺命アル相續ノ為メニ督責シ得可シ

遺物轉移税ニ付テハ政府ハ其歳入ニ首得義務ノ（アリウケトリ）權ヲ及ボシ得可シト雖モ其遺物ノ本体ニ及ボシ得可キヤ否ヤ

千八百五十七年六月廿三日ノ駁議裁判所ノ決定ヲ以テ否ト決セリ如何トナレハ首得義務ノ權ハ定制アリ加フルニ其遺物ノ負債ニ拘ハラス税ヲ取立ル故ニ税ヲ受取ル可キ税本ヲ定ムルノミニシテ貸主ニ税ヲ望ムモノニアラ

サレハナリ

取立ハ税ヲ拂フ可キモノヲ定ムルニアリ

記簿税ハ専ラ証書及ヒ轉移ヨリシテ利益ヲ受ル所ノモノヨリ納メシム

期限

相對ノ約定書ノ中其日付ヨリ三个月間ニ簿書ニ記録セシメ若シ怠ルニ於テハ倍ノ税ヲ納メシムル者アリ即チ是等ハ不動産ノ所有ノ権或ハ受用ノ権ノ轉移ノ約定書及ヒ此類ノ貸渡シ証書及ヒ諸約束ナリ入期限ノ定メナキモノアリ即チ是等ハ簿冊ニ記スルニ非サレバ用ヲ為サヾル文書ナリ

遺命書ノ記簿ハ三个月間ニ為ス可シ遺物轉移ノ布令ノ記簿ハ六个月間ニ為ス可シ

不田ノ権利

第七年霜月サ二日ノ法律ノ六十个条ニ已尊ノ事件ニ付キ規則ヲ記セリ其意左ノ如シ

正シク取立タル記簿税ハ後日如何ナル事情アルトモ返却スルヿナシ

承諾ナノ或ハ法律ヲ以テ示シタル式ヲ満サヾ

大蔵省

ル授與ノ如キ不充分ノ文書ノ為メニ税ヲ取立
タルハ正シク取立タル記簿税ト云フ可カラス
依テ此ノ如クナル時ハ税ヲ返却ス可シ然レト
モ錯誤或ハ欺冒ヨリシテ約束中ノ事ヲ廃スル
ニ至レルハ其後ノ事情ト云フ可キモノニテ
其文書ノ為メニ既ニ請取リタル記簿税ハ返却
スルヲナシ
然リト雖モ此六十个条ノ規則ニ除ク可キモノ
六ツアリ其重立タルモノヲ左ニ掲ク
本人不在中假ニ預ケタルモノヨリ納メタル
税ハ其本人帰宅ノ日ニハ受用ノ為メニ納ム
可キ税ヲ除キ餘ハ假領主ニ返ス可シ
不動産ヲ領スル時ニ税ヲ納メ其後二年間ニ
州知事ノ決定書ヲ以テ公用買上ノ中ニ其不
動産ノ當リタル時ハ納メタル税ヲ返却ス可
シ
領主タル可キモノ國ニ譲ラントト欲シ政府
リ其許可ヲ得而シテ此轉移ノ為メニ別ニ義
務アラサレバ納メタル平均税ヲ返却ス可シ
其他ハ規則ニ除ク所ノモノハ第七年霜月ノ法

大蔵省

律ノ四十八个条及ヒ六十九个条ト千八百八年十月廿三日ノ國議院ノ決裁書中ニ記載アリ

税ノ弃指

記簿税ノ弃指ノ中尤類多キモノハ二年ノ弃指ナリ此弃指ハ不規則ニ取立タル税ノ返戻及ハ文書ノ个条ニ付キ取立ツ可キ税ノ不足或ハ遺漏ノ為メニ記簿税官署ヨリノ請求及ヒ授與ノ文書ニ拘ハリ命價ノ請求ニ適ス

其他ノ弃指ノ中重立タルモノハ遺物布令中ノ脱漏ノ為メニハ五个ノ一ノ弃指ナリ布令セザル相續ノ為メニハ十个ノ一ノ弃指ナリ

定限中ニ簿冊ニ記スルノ式ヲ為サヾル文書及私ノ轉移ノ為メニハ三十个年ノ弃指ナリ

事務ノ適當及訴訟

記簿税ニ拘ハリタル爭論ハ双税ノ爭論ノ如ク一般ニ民事裁判所ニ適ス

記簿ノ官署ヨリ督責スルノ最初ノ處置ハ記簿税請取役ヨリ催促書ヲ送ルニアリ此書ハ治安裁判役ノ點檢及ヒ施行ス可キモノタルノ証アルヲ要ス

此書ハ收納抵當ノ權ヲ及ホスモノト云フハ衆
說ナリ
催促書ヲ施行スルヲ拒ム出稅人ハ其拒ム可キ
道理ヲ裁判所ニ訴フ可シ
訴訟ヲ取扱フニハ代言人ヲ立ツルヲ要シ又双
方調印アル手續書ヲ以テ取扱フ
裁判ヲ上告スルヲ許サズ唯駁議ヲ受ル事アル
ノミ

閭稅

閭稅ハ里ノ爲メニ日用品ヨリ取立ル所ノ稅ナ
リ
千八百五十二年迄ハ閭稅ノ十分一ヲ金庫ニ納
ムルヲ要シタリシカ千八百五十五年三月十八
日ノ理財法ヲ以テ之ヲ廢セリ

閭稅ノ畧紀

曩ニ諸里貴族ノ所轄ヲヲ脫シ自由ヲ得タル時
里ノ諸市ヲシテ其費ヲ給スル爲メニ自ラ收納
スルヲ許セリ然ルニ此權ヲ行フニハ稅ノ一部
分ヲ國ニ納ムルヲ要セリ千六百六十三年ノ制
誥ニ從ヘハ閭稅ノ半高ハ國ノ金庫ニ納ムルヲ

要セリ

市會郷村ノ閭門ニ於テ取立ル所ノ諸税ハ「ゾサンブレーコンテューアント」ノ時ニ悉ク廃シタリ

第七年葡萄月廿七日ノ法律ヲ以テ已里ニ於テ又此閭税ヲ再興セリ

第八年風月五日ノ法律ヲ以テ濟貧ニ給スル名義ヲ以テ閭税ヲ起ス事ヲ一般ニ許可セリ

千八百九年五月十七日ノ制誥ヲ以テ閭税ニ拘ハル大体ノ規則ヲ立タリ是即チ現今ノ制度ノ基本ナリ此大体ノ規則ヲ変シタル法律ヲ左ニ掲ク

千八百十四年十二月八日ノ法律及ヒ其翌日ノ制誥

仗税ニ付テ出シタル千八百十六年四月廿八日ノ法律

里會ニ付テ出シタル千八百六十七年七月廿四日ノ法律

此法律ヲ以テ閭税ノ起立変改廃止ニ付キテ着ルキ変換アリ

大藏省

現今ノ制度

閭税ノ起立変改廃止

千八百十六年四月廿八日法律ノ十七个条ニ従ヒ里ノ歳入其里ノ費ニ當ルニ不充分ナル時ニ里會ノ願ニ因テ閭税ヲ起シ得可シ

閭税ヲ起スノ企ハ里ニ於テスルヲ要ス第八年風月五日ノ法律ノ頃ト違ヒ他ノ官署ヨリ直ニ閭税ヲ起ス可ラサルニ至リタルハ此十七个条ノ規則ヨリ始マルナリ

里ハ國議院ニ於テ作ル所ノ制誥ヲ以テ許可スルニ非サレハ閭税ヲ起スヲ得ズ

閭税ニ付テノ里會ノ願ハ先ツ國議院内國事務課ニ出シ此課ニ於テ其里ノ理財ノ景況ヲ吟味シ以テ税則ヲ定ムルノ許可ヲ得タル時ハ又税則ヲ定ムルニ付テノ里會ノ評定ヲ國議院理財ノ課ニ出シ此課ニ於テ税ノ出額ヲ吟味ス此ノ如ク二課ニ於テ吟味ヲ遂タル上國議院ノ惣會議ニ於テ制誥ヲ作ルナリ

許可スルト拒ムト个条ヲ廃スルハ政府ノ権ニアリ然レトモ里會ニ代リテ个条ヲ作リ之レニ加

ルヲ得ス

里會ニ付テ出シタル千八百六十七年七月廿四日ノ法律以前ハ税則ヲ改正スルニハ起立ノ時ノ如ク許可ヲ受クルヲ要シ廃弃スルニハ國議院ニ於テ作ル帝ノ制詰ヲ要セリ

千八百六十七年ノ法律以来ハ間税ノ新設変換廃弃ニ付テ數多ノ區別アリ即チ國議院ニ於テ作ル制詰ヲ要スルモノアリ里會ノ評定ヲ以テ決スルモノアリ里會ニ於テ評定シ州知事ノ許可ノミヲ要スルモノアリ

國議院ニ於テ作ル帝ノ制詰ヲ要スルモノ左ノ如シ

里會ニ於テ投票シタル間税ノ新設

間税ノ取立方ニ拘ハル規則

規則改正及ヒ間税畏限ノ変換

地方税則中ニ未タ税ヲ命セサル物品ニ新ニ税ヲ命スル事

一般ノ税則中ニ載セサル物品ヨリ税ヲ取立ル事

一般ノ税則ニテ定メアル最高額ヲ越ユル処

ノ税額ヲ取立ル事

里長ト里會ト一致アリテ里會ノ評定ノミヲ以テ足レリトスルモノヲ左ニ掲ク

間税ノ廃弃或ハ減省

間税ノ原税ヲ五个年迄ハ延期スル事

五个年ノ内ニ於テ原税ノ十分一ノ高迄ハ加増スル事

但シ州會ノ意見ヲ聞キタル上代法制詰ヲ以テ作リタル一般ノ税則中ニ定メアル最高額ヲ越ユ可ラス且其税則中ニ載セサル物品ヨリ税ヲ取ル可カラス

里會ニ於テ評定シ州知事ノ許可ノミヲ要スルモノ左ノ如シ

但シ前ニ記スル所ノ諸件ノ里長ト里會ト一致アラサル時

現在行ヒアル加税ヲ連續スル事

十分一ヲ越ヘテ原税ヲ増ス事

但シ一般ノ税則ニテ定メアル最高額ヲ越ヘス其中ニ載スル所ノ物品ナルヲ要ス

間税ヲ命ス可キ物品

大藏省

間税ヲ命ス可キ物品ハ地方ヲ日用ニ備リタル
モノアリ
千八百九年ノ制詔ヲ以テ此物品ヲ五種ニ分ツ
事左ノ如シ
第一飲料
第二食物
第三薪炭
第四雑竹
第五材木
千八百十六年四月廿八日ノ法律ヲ以テ間税ヲ
命ス可キ日用品ヲ定ムルヲ里會ニ托シタリ此
時ヨリシテ物品種類ノ區別ナク又家用ニ給ス
ルモ製造用ニ給スルモ物品ヲ區別スル事ナシ

取立ノ方法

税ヲ取立ルニハ里會ニ於テ四様ノ取立方ヲ用
ヒ得可シ即チ官吏ノ取立ルモノアリ請負人ニ
任スルモノアリ官吏ト請負人ト共ニスルモノ
アリ又税官署ニ托スルモノアリ
官吏ノ取立ハ里長ノ配下ニアリテ里長ノ命ヲ
以テ里ノ官吏之ヲ取立ルナリ

大藏省

請負人ニ任スルモノハ間税ノ高ヲ競ニ掛ルモノニシテ請取方ハ請負人ノ代人之ヲ為シ諸雑費ハ皆請負人ノ任ニシテ投票ノ高ヲ請負人ヨリ里ニ納ム

競ヲ為スハ燭ヲ滅シテ郡知事或ハ里長ノ目前ニ於テシ而シテ最高額ノ者ニ任ス然レ𪜈理財長官ノ許可ナケレハ決定ノモノニ非ス

請負人ニ任スルモノハ三个年間約束シ得可シ而シテ請負ノ権ハ官署ノ承諾ヲ得サレバ他人ニ譲ル可カラス

十分一ノ増高ヲ以テ請負ヲ求ムルモノハ二十四時間ニ為スヲ要ス

競ハ封書ヲ以テスル丁モアリ

請負人ト官吏ト共ニスルモノハ會社ノ類ニシテ請取方ハ常ニ請負人ニ托ス然レ𪜈若シ請負高ト請取ノ費ニ當ル金額ノ外ニ餘リアレハ里ト請負人トニ分ツ

費用ノ高ハ約定書ニ定メアリ要スル所ハ一割二分ヲ越ユ可カラス

収税官署ニ托スルモノハ請取方ヲ此官署ニ托

ニ費用ヲ里ニテ拂ヒ税ヲ里ニ收ム

税ハ間税ノ規則中ニ示シアル請取役所ニ於テ之ヲ請取ル

千八百三十四年五月廿四日ノ法律以来自用ノ車モ亦貸車ノ如ク官吏ノ検査ヲ受ク可シ然レトモ歩行或ハ馬上ノ人ハ官吏直ニ検査ス可ラス

里長ノ前ニ誘引スルノ権アルノミ里長ハ其往来人ヲ問フテ時宜ニヨリ物品ヲ検査スルヲ命シ得可シ

間税ヲ命スルハ其地ノ日用品ニ限ルカ故ニ土地ヲ通行スル物品ヨリ取立ツ可ラス依テ里ヲ通行スルカ或ハ二十四時間其地ニ滞留スル所ノ人ハ税ヲ預ケ置クカ或ハ他ノ証ヲ預ケ置テ通行ノ免許状ヲ受クルヲ要ス二十四時ノ定限中ニ出ル時ニ預ケ置キタル証或ハ税ハ返却ス可シ若シ通行人二十四時間以上滞留スル時ハ通行ノ届ケヲ為ス可シ此届ニハ品物ヲ置ク可キ場所及ヒ何時ニテモ検査ノ請ケ易キ場所ヲ載スルヲ要スト雖トモ亦通行免許ヲ受クル時ノ如ク税ヲ預ケル或ハ証ヲ置クヲ要ス

輸入出及ヒ関税ト同シク間税モ亦物品ノ預リヲ為ス事ヲ許ス預リニ真假ノ別アリ真ノ預リハ官署ノ蔵ニ預ルナリ假リノ預リハ出税人ノ蔵ノ中ニ置キテ間税ノ取立役ノ所轄ニ帰ス預リアル物品ハ之レヲ賣拂フ度毎ニ税ヲ納ムルヲ要ス

間税ニ付キテノ訴訟

間税ノ事ニ付テノ争論ハ司法ニ適スルモノアリ政令ニ適スルモノアリ

税則ノ施行ニ付テ起ル争論ハ民事裁判所或ハ治安裁判役ニ於テ決裁シ懲戒裁判所ニ於テ罰討ヲ言渡ス

里ト間税ノ取立役ト或ハ請負人トノ間ニ起ル争論ハ政令ノ官署ニ於テ決裁ス

千八百六十五年以前ハ州知事評議所ニ於テ州知事之ヲ裁決シ此裁決ヲ國議院ニ上告スルヿアリタリ千八百六十五年ノ法律以来ハ州知事評議所之ヲ裁決ス是即チ前ニ説キタル如ク州知事評議所ノ獨權ヲ以テ決裁スルヲ許シタル三件ノ一ナリ

大藏省

大藏省

大藏省